

2011年禁止表 主要な変更の要約

S0. 未承認物質

公式に承認されておらず、禁止表の他のセクションに対応しない薬物の立場を明確にする文章を追加した。

常に禁止される物質と方法（競技会（時）及び競技会外）

S2. ペプチドホルモン、成長因子および関連物質

赤血球新生を刺激する物質の開発数が増加していることを反映し、低酸素誘導因子（HIF）安定薬を例として追加した。

ヘマタイトの国際一般名（INN）を追加した（ペジネサタイト）。

血小板由来製剤の筋肉内投与を禁止表から削除した。

S3. ベータ2作用薬

使用の申告に関するすべての記載を削除した。

S5. 利尿薬と他の隠蔽薬

デスモプレシンを隠蔽薬の例として追記した。

S5の最後の段落を修正し、利尿薬もしくは隠蔽薬が存在する時に、閾値水準が設定されている外因性の物質が閾値水準以下で検出された場合の取り扱いをより明確に説明した。

禁止方法

M2. 化学的・物理的操作

血液を採取し、操作を加え、循環系へ再注入する一連の処置からなる方法をこのカテゴリーに追記した。

M3. 遺伝子ドーピング

明確にするために、遺伝子ドーピングの定義を言い換え、3点に分けた。

競技会（時）に禁止される物質と方法

S6. 興奮薬

レブメタンフェタミンの綴りを国際一般名（INN）のとおり修正した。

※JADA 訳注：日本語の表記に変更はありません。

メチルヘキサンアミンは特定物質へ移動した。

S8. カンナビノイド

定義を言い換え、このセクションはすべてのカンナビノイド様物質を含むことを明確にした。

S9. 糖質コルチコイド

禁止される使用経路のみ、このセクションに記載した。

特定競技において禁止される物質

P1. アルコール

近代五種(国際近代五種連合:UIPM)の要請、および競技構成が変更されたため、アルコールはもはや近代五種では禁止されない。

P2. ベータ遮断薬

ボブスレーに加え、ベータ遮断薬はスケルトンでも禁止されることを明確にした。両競技とも国際ボブスレー連合(FIBT)に属する。

国際体操連盟(FIG)の要請で、体操競技はこのカテゴリーから除いた。

世界ダーツ連盟(WDF)の要請で、ダーツをこのカテゴリーに追記した。